

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価書

令和3年1月29日（金）

（甲斐市立敷島中学校）学校関係者評価委員会作成

第2回 学校評議員・学校関係者評価委員会合同会議

実施日：令和3年1月29日（金）午後4時～

会 場：校長室

参加者：（学校評議員兼学校関係者評価委員）

（委員長）河西壽人，国久朝子，小宮山齊，保延浩子，

（学校関係者評価委員）小池宏

（学校側）（校長）中満一幸，（教頭）高橋光明

I 学校側から提案された内容

- ・「自己評価（教職員評価）シート」「生徒アンケート」「保護者アンケート」の分析結果及び課題点と改善策を示した「自己評価書」
- ・自己評価（教職員評価）シート集計結果表（前年度・本年度，甲斐市との比較）
- ・生徒アンケート集計結果表（前年度・本年度，甲斐市との比較）
- ・保護者アンケート集計結果表（前年度・本年度，甲斐市との比較）

II 協議された主な内容

学校側から提示された自己評価書及び生徒アンケート，保護者アンケートの結果に基づき，本校の教育活動や学校運営の状況の分析について，課題点が正しく把握されているか，改善策が適切であるか等について協議した。また，学校運営に関することや生徒の様子，今日的な教育課題等について意見交換を行った。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

教職員による自己評価は，すべての項目において，A評価又はB評価が最も多い回答割合であった。A評価が最も回答割合が高かったのは35項目，B評価が最も回答割合が高かったのが14項目であった。また，C評価とD評価を合わせて10%（1割）以上の評価があった項目は，50項目中5項目あった。このことから，全体的に見て敷島中の教職員は，校長が掲げる学校経営方針に基づいた教育活動に日々懸命に取り組んでいることがわかる。生徒アンケートでは，授業について，「授業が楽しい」「授業がわかる」と答えた割合が前年度より高くなっている。しかし，授業中の発言や発表の割合が低いので，校内研究と関連づけた，個に配慮した，わかる授業や学ぶ意欲を喚起する授業づくり，また「やまなしスタンダード」の授業改善の視点の一つ「自分の考えを発表・交流する機会」を多く設け，質問や発言を引き出す授業に，さらに取り組む必要もある。他にも，宿題や家庭学習の目標時間をクリアしている割合が約8割と昨年を上回り，宿題を忘れずにしている割合も昨年を上回っている。今後も，生徒の実態に即した改善を推し進め，継続的な取組を期待したい。全体的に課題もいくつかあるが，その改善に向け，管理職のリーダーシップの下，全教職員が参画し，本年度のまとめをしっかりと行ってほしい。

Ⅱ 特 徴

- ・多くの教職員が学校教育目標実現に向けて、学校長の学校経営方針に基づいた多様な取組を、P D C Aサイクルを意識して教育実践が行われている。
- ・教職員が「協働」する大切さを理解し、職員間の連携を意識しながら、「報告・連絡・相談・確認」の実践等一人一人が取り組むよう務めている。
- ・学習指導については、「わかる授業」「基礎基本の定着を図る授業」への取組を行っている。今後も、校内研究のテーマである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「やまなしスタンダード」授業改善の視点を中心とした各教科の取組を行っていく必要がある。
- ・本年度の取組の成果が、生徒アンケートの、「授業は楽しい」・「授業内容がわかる」という項目や学力調査にもあらわれているので、今後もさらに継続して進めていく必要がある。
- ・コロナ禍、家庭との共通理解がされ、落ち着いた雰囲気のもと、教育活動が展開されている。そのような環境の中、より一人一人の生徒に寄り添った指導を継続していく。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・昨年度及び、今年度の学校評価の結果を踏まえ、本校の課題及び改善策を全教職員が共有し、学校運営改善の取組を行っていく。様々な活動において、P D C Aの段階を丁寧に行い、教育活動の工夫・改善を進める。
- ・すべての教職員が自己の分掌や役割を認識し、他の教職員と連携、協働する中で、主体的に学校運営へ参画していく意識の更なる向上を図る。連携・協働をさらに進めることによって、同僚性を高め、学校の活性化を図っていくようにしたい。
- ・学習指導、生徒指導、生活指導はこれでよいというものはない。課題に気づく目を持ち、組織をフルに活用して改善、向上を目指したい。
- ・コロナ禍、今まで通りの活動はできないが、保護者、地域と学校との連携をより一層推進し、開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを一層進める。

※特記事項

- ・コロナ禍で各種行事ができなくなっている。
行事の精選という観点からみれば、良い機会である。実施することは教育的な効果があるが、教職員の職務の多忙化という懸念が生じることにもなる。人材育成や職場環境を整えることが必要である。部活動への取り組みも含め、行事も必要なものを残し、学校自体のスリム化を図る良い時期になっている。
- ・生徒のあいさつが昔に比べ、自主的・積極的に行われるようになりうれしく思う。
- ・自主学習ノートやプランニングシートを見る中で、子どもの睡眠時間が短いことが気になる。2年生は11時、12時と寝る時間が遅い感じがする。1年生は9時半や10時、3年生は家庭での学習時間も増え、受験生として頑張っている様子がうかがわれる。支援サポーターとして半年間学校に関わり、個々の生徒の頑張りが見られ、何もなく終われることがうれしい。
- ・コロナ禍で行事が中止になり、4月以降生徒の様子を実際に目で見ることはできなかった。直接様子をみて、意見交換ができるよう工夫が必要である。書面ではなく、自分の目で見て意見交換をしていきたい。
- ・生徒が楽しく生活している様子が見られなかった。残念に感じている部分もある。だからこそ、この中で何ができるかを考えていく良い機会ではないか。
- ・まとめにも記載されているように、学校評価の結果を全職員で共有し、各教職員が課題意識を強くもって、今後も課題解決に取り組んでいってほしい。

記載責任者

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員会委員長 河西 寿人